

春を告げるマンサクの花と多様なスマレたち



国指定天然記念物の青葉山の森で、一番早く春を告げるのがマンサクの花です。マンサク科の落葉小高木で、名の由来はこの花が一杯咲くと豊年満作になるからとも、黄色の花がたくさん咲いている様からとも、春に「まず咲く」からとも言われています。一月中旬頃の未だどの木にも葉や花もないうちから、短い枝先に黄色い花を咲かせ始めます。幅三ミリ、長さ一・五センチほどの細長い四枚の花びらがテープをほどくようにして咲きます。

そして、スマレが咲き出すといよいよ春本番です。植物園には帰化植物も含めて十九種ものスマレが生えています。その中で目につくのが、明るい重色(すみれいろ)の花を咲かせるタチツボスマレとナガハシスマレです。名の由来は、前者が茎の立つ庭(坪)によく生えるスマレ、後者は花の距きよ(と)の部分(くちばし)に見立て、これが長じスマレ、と言いつ意味のようです。名ほすいぶん違いますがこれがお互いにそっくりで、同じ場所に生え、同じ頃に花を咲かせます。これによく混じり合わずに(雑種を作らずに)独立した種として生きていられるものだと思われませんが、距の長さの違いによる訪花昆虫の棲み分けが多様性を保持できる仕掛けのようです。

多様性こそが生物界の生き方の極致、学生諸君も多様性を発揮してさまざまな分野で活躍する人材に育って欲しいものです。

東北大学学術資源研究公開センター
植物園園長

鈴木三男

◎東北大学 植物園 URL : <http://www.biology.tohoku.ac.jp/garden/>

この『まなびの杜』は、インターネットでもご覧になれます
<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/manabi/>
バックナンバーもご覧になれます

- 『まなびの杜』をご希望の方は各キャンパス(片平、川内、青葉山、星陵、雨宮)の警務員室、附属図書館、総合学術博物館、植物園、病院の待合室などで手に入れることができますので、ご利用ください。
- 無断転載を禁じます。
- 『まなびの杜』は3月、6月、9月、12月の月末に発行する予定です。
- 『まなびの杜』編集委員会委員(五十音順)
伊藤 彰則 大瀬戸 真次 岡田 克典 小坂 健 川住 隆一 齋藤 忠夫
田邊 いつみ 寺田 直樹 中原 太郎 堀井 明 山添 康 横溝 博
東北大学総務部広報課 佐藤 吉和 豊巻 智史
- 『まなびの杜』に対するご意見などは、手紙、ファクシミリ、電子メールでお寄せください。
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
TEL 022-217-4977 FAX 022-217-4818
Eメール koho@bureau.tohoku.ac.jp

【 編 | 集 | 後 | 記 | 】

卒業式のシーズンを迎えました。卒業生とその御家族・関係者の皆様に心よりお祝いを申し上げます。本学の学部や大学院で教育を受けた学生が、在学中に修得した専門知識や技術を生かして、今後、社会や学界などで大いに活躍してくれることを祈念しております。さて、本学における学業・研究の集大成として、多くの学生が卒業論文・修士論文・博士論文を執筆しました。論文を執筆する際に、研究の内容や成果の重要性を読者に分かりやすく伝えることがとても難しい作業だと感じた学生も多かったのではないかと思います。『まなびの杜』編集委員会では、本学の現状や課題、最先端の研究の紹介、生活に役立つ知識などを読者に分かりやすく伝える記事を執筆者に依頼しています。多様な専門分野の研究者と事務局の専門スタッフがこれらの記事を精読し、自由闊達な意見交換を行い、執筆者にコメントを返す作業を繰り返すことにより、さらに分かりやすい記事にするように努力しています。このようなプロセスを経て完成した本誌が、皆様に親しんでご愛読いただけるものであることを願っております。

『まなびの杜』編集委員会委員
経済学研究科 教授 大瀬戸真次



東北大学

まなびの杜

平成24年3月23日発行
発行人:東北大学『まなびの杜』編集委員会委員長 齋藤 忠夫
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学総務部広報課 TEL.022-217-4977 FAX.022-217-4818

※著作権は国立大学法人東北大学が所有しています。※無断転載を禁じます。※この用紙は、再生紙を使用しています。